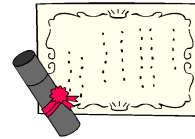


浩然

「ふるさとを愛し 自他を大切に
たくましく未来を拓く生徒の育成」
香美町立村岡中学校通信
No. 14 2018. 3. 23 (Fri.)



凜とした卒業式



やわらかな日射しに、春の訪れを感じるこの頃です。

保護者の皆様、地域の皆様、平成29年度も本校教育活動に多大なるご理解・ご支援を賜りまして、ありがとうございました。

3月9日、なごりの雨の中で第9回卒業証書授与式を挙行いたしました。多数の来賓・保護者の方々のご臨席を賜り、すばらしい式になりました。



心ある、規律ある、感動のある卒業式でした。1・2年生が立派な態度で心をこめて送ってくれました。48名の卒業生もリーダーシップをしっかりと発揮して、自分たちの行動や姿勢、背中中で心で後輩たちに返してくれました。村岡中学校の新たな伝統をまた一段積み上げたと言っている、感動的な卒業式になりました。返事・歌・姿勢、そのすべてがさわやかで、浮わついたりとも緩んだところもなく、凜とした態度で旅立って行きました。

将来、学んだ母校は心の故郷となり、故郷は人の礎になるものです。村岡中も「故郷」にふさわしい存在で在り続けたいと考えます。

*

*

さて、本日は修了式でした。修了とは「物事をおさめる」という意味であり、一年間の学習を終えたことを認める式でもあります。1年生も2年生もこの一年たいへんよくがんばりました。代表で2年生は山根一真さん、1年生は西村楓也さんに修了証書を授与しました。校長や職員の願いでもある「村中プライドの確立」にしっかりと応えてくれました。それぞれの中には自分なりにいろいろな困難があったでしょうが、それを乗り越え、がんばったと言える一年であれば嬉しいなと思います。4月から、いよいよ2年生は最高学年になります。仲間を大切に団結力を高め、下級生の模範となってリードしてくれることを期待しています。また、1年生も経験値を増やして真の中学生になりました。後輩も出来ます。新入生をよろしくお祈りします。4月9日の始業式で、意欲満々の皆さんに会えることを楽しみにしています。



「優しい人」になってほしい！

卒業式の式辞で、一人ひとりの名前には親の願い・希望がこめられている、といったことを話

しました。

私の大学時代の友人が、生まれた娘に「蛭」という名前をつけました。娘が生まれてそれを提案すると、最初おじいちゃんやおばあちゃんはじめ家族は反対したそうです。なぜ、「蛭」なんだと訊かれても、実は子どもが生まれる5・6年前に大変人気があったテレビドラマの主人公一家の娘の名前だとは言えなかったそうです。テレビドラマの登場人物と同じ名を命名するなんて、家族からすれば不真面目だと、当時はまだそんな時代だったような気がします。

その「蛭ちゃん」も、今や30代半ばの立派なお母さんになりました。

ところで、そのドラマというのは、北海道の富良野を舞台とする『北の国から』というドラマです。主人公である父親・五郎と、小学生の純(兄)、蛭(妹)の家族3人の話です。北海道・富良野で丸太小屋に住み、電化製品もほとんどない貧しい生活ながら、自分たちで水を引き、風力で電気を通し、大自然を舞台にして五郎一家が精一杯生きていく物語です。

ある日の放送。事情があって離れて暮らす母親・令子が東京から来ていて、再び東京に戻るシーンです。(この回のシナリオは、中学校の国語の教科書にも一時期掲載されていました。)実は、母親は重い病気を患っていて、今度いつ会えるかわからない、そんな場面でした。母を見送る富良野の駅には父親の五郎と息子の純、令子の妹の雪子しか見送りに行きませんでした。母の見送りに行かなかった蛭を、兄の純は頬を染めて責めました。

しかし、実は蛭は母の列車を駅ではなく、親戚の草太兄ちゃんに頼んで連れてきてもらった空知川の川岸で、見送っていたのです。川つぶちを懸命に走って追いかけて、ぼろぼろ涙を流しながら見送りました。母も川向こうで必死に走る蛭の姿を列車の窓から見つけ、窓を開け、「蛭～！」と叫びながらちぎれんばかりに手を振ります。とても印象深い感動的なシーンです。

その回のエンディングで父親の五郎が、見送りに行かなかった蛭をどうしても許すことができないでいる純に対し、こう言います。「お前はあいつのことを怒っているのか」「人はそれぞれ悲しいときに、悲しさを表す表し方が違う。人前で平気で泣けるものもいれば、涙を見せたくない、そういうものもいる」のだと。このドラマには悲しいシーンもたくさんあります。それでも、いつも人を思う優しい心が深く伝わってきました。父・五郎が言うように、人の悲しみの表し方は違うことがあると思います。そして私は、人は「優しさの表し方」もまた違うのではないかと思うのです。包み込む優しさもあれば、あえて厳しさを表に出して叱咤激励する優しさもあるのです。いずれにしても、皆さんには今以上に、真の優しさのわかる人になって欲しい、といつも願っています。

卒業生の進路 全員確定！

19日の公立高校合格発表で、今年度本校卒業生の48名全員の進路が無事確定しました。今年度は、村岡高校28名、八鹿高校6名、日高高校2名など11の高校に進学します。但馬外や県外の私立高校、通信制高校等に進学する人もおり、最近では進学先も多岐にわたっています。しかし、合格はゴールではなく、スタート地点です。48名全員の今後の活躍と幸運を祈っています。

いじめ撲滅講演会「本当に強い人はいじめなんかしない」

16日、プロレスZERO-1(ゼロワン)の大谷晋二郎選手らによるいじめ撲滅のための講演会を開催しました。道徳や学活などでいじめについての授業はふだんからやっているわけですが、違う視点からのアプローチもいいのではと思い、お招きしました。スクワットで体を動かしたり、良いお話をお聞きして、貴重な時間を過ごしました。心に響いたので、何より生徒たちの真剣で、楽しげないきいきた表情に、やってよかったなと強く思いました。

* 新年度当初の予定につきましては、HP、各学年通信でご確認ください。(文責:才田 寛)

《 村岡中学校 HP <http://muraoka-jhs.kami-hyogo.ed.jp/> 》



